

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0372100941		
法人名	社団医療法人 三和会		
事業所名	グループホーム「たんたん」		
所在地	岩手県岩手郡雫石町板橋3-7 (電話) 019-692-3788		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	2月6日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	盛岡繋温泉病院、つなぎ歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道46号線繁十文字交差点から、小岩井農場方面に進行して間もなく左に関連施設があり、自然豊かな、閑静なところに立地している。敷地を同じくする同一法人の老健施設、「はーとぽーと雫石」との連携によって、健康、栄養、クラブ活動、利用者間の交流等で充実した支援ができています。介護計画の作成にあたっては、家族への説明と意向を聞くことに力を入れている。利用者一人ひとりの表情は明るく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の大切さを理解し、前回評価の改善課題には改善に向けて真摯に取り組み、サービスの質の向上が見受けられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を踏まえて、全職員が改善点を共有する中で、支援のあり方をみんなで考えるという意味で、評価の持つ意義を理解し、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホーム側の状況報告と出席者の意見交換とに内容が大別される。出された意見の中には、災害時や利用者の外出等に係わって、地域との連携、協力の重要性についてのものがあり、その一部については具現化したものもあるが、今後、更に取り組みが期待されるものもある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族アンケート、投書箱の設置、来所時、ケアプラン作成時など、あらゆる機会を捉えて、意見、希望の把握に努めるようにしている。その上で、相談に応じたり、運営に反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入、地域行事には可能な限り参加するようにしており、広報誌「かんろ」も配布している。ただ、災害時における地域からの協力については、もっと連携を強めていくことが期待される。これは推進会議における意見でも同じである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間としての尊厳を大切にして、居宅同様地域の中で生きがいをもち、その人らしい暮らしを重んずることを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示、職員が携帯するなど、具体的な方法を取りながら、全職員が共有することに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、地域の行事などにも積極的に参加するようにしている。また、地域に立地する他の施設との交流にも努めており、地区のテレビ共同アンテナの維持管理組織にも参加している。また、広報も配布し連携を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を踏まえての計画、そして実践の過程の中で評価の大切さを理解している。前回の外部評価での指摘から、今年度は利用者一人ひとりの希望によって、それぞれの望むところに外出できるよう支援するよう力を入れてきた。時には家族の方にも同伴いただいている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況を報告する中で、多様な意見を求めている。その意見の中で、災害時に備え飲料水の備蓄の必要が出され、早速具現化している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>所長(管理者)は町への届出文書等は直接赴いて手渡すようにし、町の担当者との連携を確保している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来所された時に、健康面と生活面について報告している。金銭管理は原則的には取り扱ってはいないが、必要な場合は事前に知らせて準備していただくことにしている。広報「かんろ」を配布している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の要望、意見は投書箱の設置、家族アンケート、ケアプラン作成時など、いろいろの機会に聞くようにしており、それを運営に反映させているし、今後もそのように取り組むことにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本年度は新任者はいないが、職員は常に利用者一人ひとりに信頼される関係づくりに努めることを共有された意識として持っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県グループホーム協会主催の研修会(ブロックを含む)を始め、その他の研修会にも参加するようにしている。研修したことは、復命、内部研修などで職員全員が共有し、日常のサービスに生かすように努めると同時に資質の向上をはかっている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会第2地区交流会、町内サービス事業者間会議などに参加し、情報交換を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3日かqん					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力もあって、3日間の体験入居をしていただき、利用者の皆さんと生活を共にすることによって、全体の雰囲気に馴染むことで、本人の意向で入居を決めた具体例がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者も職員も共同しながら、毎日の生活を送っている。みんなで分担しながらやれること、出来ることをやっている。畑仕事、季節の行事、毎月の諸行事も分担しながら、みんなが参加するように工夫されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に本人、家族に聞きとり、アセスメントシート、更に、ケアプラン作成時に本人、家族の意向、希望を聞き取っている。日常においての場面場面での把握にも心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族に介護計画の評価報告をすると共に、それに対する意見、職員の意見を求め、それらと利用者の意向やアセスメントなどに総合的に考慮しながら介護計画を作成し、家族の署名を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに職員全員で見直しをするが、利用者の状況によっては、その限りではなく、変化に対応して見直す体制を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人である老人保健施設「はーとぼーと雫石」の協力によって普通入浴困難者におけるリフト入浴の使用、リハビリへの協力、助言、共同のクラブ活動を行うことが出来るようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人および家族が決めているし、通院は家族同伴を基本としており、日常の健康関係資料については家族を通し、かかりつけ医に提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況の変化に対応するための方針は全職員で共有している。終末期に向けた支援体制は現在対応者がおらず、取り組んでいない。	○	現時点で対象者はいないが、現在の利用者も今後重度化が進んでくると思われるので、これを踏まえて、いつ、どんな時でも、即応できるような方針を持ち、学習を深めるような体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーの把握に努めると同時に個人の情報記録の取り扱いには、特に留意している。利用が必要な場合は必ず本人、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的に共通した日課は決めているが、一人ひとりの利用者の希望を最優先しての暮らしが出来るように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員が分担しながら、準備や後片付けに参加していることが確認出来た。利用者の一人の方が、毎日のメニューを紙に色変わりの文字で書き、食堂に掲示されていることが特徴的であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日(13:30~18:00)出来るようにしている。毎日入浴を希望する方が1名いるが、その方以外は話し合いで曜日の予定を決めている。ただし、希望があれば、この限りではない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時など日常においては、利用者の希望、能力などにより役割分担などが流れの中で決まり、自然体で行われるような雰囲気になっている。それが、クラブ活動、畑仕事等々趣味や生活歴を活かした活動の支援に現れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日課の一つになっている。希望によって買い物、花への水やり、畑仕事など、出来るだけ屋外へ出る支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は外部からの侵入者防止を兼ねて、施錠をしている。日中は施錠はしないこととしている。ただし、玄関のドアには不意の外出が察知出来るようにチャイムをつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は実施しているが、地域住民、消防団等への具体的働きかけは行われていない。	○	運営推進会議でも意見が出ていることでもあり、更に、具体的な取り組みの方法など、意見を求めながら、自治会や地域消防団などを通して、地域の協力を具現化できるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人老人保健施設「はーとぽーと雫石」には管理栄養士がおり、その方からチェック、コメントを頂き、献立作りに活かしている。個人チャートで一人ひとりの食事量や水分摂取量もチェックし、その確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所を中央に挟んで、食堂と共通の居間が配置されている。居間の一隅には、畳の間もある。周囲の壁の下半分は木の腰板がめぐり、温かみを感じられる構造になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが馴染みのものを持ち込んだり、自分の趣味の作品である絵や書を掲げたり、それぞれ工夫した居室作りをしていることが知見できた。		